【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成17年4月21日(2005.4.21)

【公開番号】特開2002-261572(P2002-261572A)
【公開日】平成14年9月13日(2002.9.13)
【出願番号】特願2001-52615(P2001-52615)
【国際特許分類第７版】
　Ｈ０３Ｈ　9/145
　Ｈ０３Ｈ　9/25
【ＦＩ】
　Ｈ０３Ｈ　9/145　　Ｄ
　Ｈ０３Ｈ　9/25　　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成16年6月14日(2004.6.14)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００１
【補正方法】変更
【補正の内容】
　【０００１】
【発明の属する技術分野】
　本発明は表面弾性波素子に係り、特に、移動体通信機器のＲＦ（無線周波数）フィルタやＩＦ（中間周波数）フィルタ、アンテナ共用器等に用いて好適な表面弾性波素子に関するものである。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
　【０００５】
【発明が解決しようとする課題】
　ところで、上述した従来の表面弾性波フィルタを、例えば、携帯用通信機器に適用した場合、伝播する表面弾性波の音速ｖは３０００～４０００ｍ／ｓであるから、共振周波数ｆを実用上必要とされる２ＧＨｚ帯以上とすると、電極指の幅ｗが０．５μｍ以下という薄膜電極を用いる必要がある。このような薄膜電極では、大電力で動作させた場合にエレクトロマイグレーション等により劣化し易く、その結果、ＳＡＷ共振器４の耐電力性が低下し、表面弾性波フィルタの信頼性が低下してしまうことになる。また、この表面弾性波フィルタをアンテナ共用器に適用しようとした場合、耐電力性の点で難があり、実用化に至っていない。